

令和 7 年度第 2 回 静岡市道の駅整備検討委員会 会議録

- 1 日 時 令和 7 年 9 月 18 日（木） 14 時～16 時
- 2 場 所 静岡庁舎 新館 4 階 建設局災害対策室
- 3 出席者 【委 員】内海委員、山内委員、池谷委員、伊賀委員、青木委員
服部委員、筒井委員、中山委員、大澤委員、辻本委員
【事務局】尾焼津参与兼課長、岩瀬課長補佐兼企画係長
鏡味主査、佐野主査
【オブザーバー】静岡国道事務所、富士市
- 4 傍 聴 者 0 人
- 5 議 題 (1)地域課題と道の駅整備の必要性について
(2)道の駅整備コンセプト及び整備方針について
- 6 会議内容

(1) 開会（事務局）

(2) 前回の振り返りについて（事務局（鏡味主査））

(3) 議事（1）地域課題と道の駅整備の必要性について（事務局（鏡味主査））

(山内副委員長)
つい先日、台風 15 号の影響で県内では冠水等が発生し、東名・新東名も通行止めとなり国道 1 号線では渋滞が発生していた。その際に道の駅整備予定地やその周辺地域ではどのような活用又は事象が発生していたのか教えていただきたい。

(事務局（岩瀬課長補佐）)
当時の事象に対して、何台退避したか等のデータは持ち合わせていない。なお、先日のカムチャッカ半島の地震による津波発警報発令の際、道の駅「富士」から庵原の交差点までが約 8 時間通行止めとなった。そのようなシチュエーションに対して、当該道の駅が一時退避所として活用できれば有効であると考えている。また、当日活用されていたかは確認できていないが、暫定駐車場を整備されているため、一時退避していた道路利用者もいたのではな

いかと推察する。

(内海委員長)

近隣の道の駅と差別化・連携を図るとのことだが、具体的にどのような取組を想定しているのか、現時点で何か決まっていることがあれば教えていただきたい。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

道の駅「富士」及び、道の駅「富士川楽座」については、先日、運営事業者に対してヒアリングを行い、相互に連携して共創・共栄をはかりたいという方向性で意見交換を進めた。

その中で、道の駅間の利用者の往来や食というコンテンツでの差別化を進めることが出来ればと考えている。

(内海委員長)

道の駅の利用者が往来する際の交通手段は何を想定しているのか？

(事務局（岩瀬課長補佐）)

道の駅「富士川楽座」では E バイクのレンタルを行っており、天候による影響等はあるが、そういったシェアモビリティを活用して道の駅間の相互の移動等は可能ではないかと考えている。

(青木委員)

蒲原地区の商業・工業について、東京タワーに塗装を施したのは蒲原地区の職人であり、鋼橋塗装は蒲原が発祥の地とも言われている。可能であれば工業の章に「鋼橋塗装のまち」ということについても記載してほしい。

(内海委員長)

地域の歴史を踏まえた工業という観点でも記載内容に厚みが出てよいと考える。

(中山委員)

整備の必要性について、シェアモビリティ等と記載されているが、現時点で何か想定されているものはあるか。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

シェアモビリティについては、現時点では具体化は図られておらず、今後検討が必要となる。現時点ではレンタサイクル等を想定している。

(内海委員長)

シェアモビリティについて、利用に際して、なるべく天候や気温に左右されないモビリティや交通モードもあると望ましいと感じている。

(辻本委員)

道の駅整備に際して、4つの機能についてまとめられているが、地域振興機能に含まれているレストランや物販等は、道の駅開業当初から施設として整備を行ったうえで開業する想定なのか。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

地域振興施設として飲食・物販施設を整備した状態で開業する予定である。今後の運営事業者を決定していく過程で、具体的にどのような飲食・物販等の施設を導入していくかは検討していく。

(服部委員)

近隣に道の駅が2か所整備されており、特徴づけていけないといけない。また集客性等を含めて、どのように持続可能な運営を実現していくのかについて教えていただきたい。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

トライアルパークでトライアルサウンディングを試行していた中で、休日利用の需要は見込まれる中、平日利用の需要が不足しているということが明らかとなった。目的地化に資する「また、ここに来たい」と思えるようなコンテンツが必要であると認識しており、今後選定される運営事業者と協議を行いながら持続可能な運営を実現できるコンテンツを検討していく。

(内海委員長)

周辺の道の駅との差別化・連携について、それぞれの道の駅の特徴等について整理や、利用者アンケート調査で得られたニーズを補完する等が必要となってくる。

(山内副委員長)

現状と課題の中で、道の駅「蒲原」を起点とした周遊する際のアクセス性や案内・誘導等について不足しているが、課題の中でそのことについて触れられていないため記載したほうが良いと考える。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

指摘いただいた点について、課題の中に記載させていただく。

(伊賀委員)

トライアルパークの利用者層や売上等のデータは保有しているのか。また、出店した事業者からのリピートニーズがあるのかについて教えていただきたい。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

利用者という観点では、ペット関連のイベントであれば1000人以上の集客があり、市内外から訪れるということは把握しており、メーカーとタイアップしたイベントでは、都内からの来訪者がいたことも確認されている。事業者からのニーズとしては、やはり平日利用者が少ないことから長期間にわたる出店は難しいとの結果だった。

(大澤委員)

P4 トライアルサウンディングを経て、必要と想定される機能が整理されたとあるが、具体的に何が整理されたのか教えていただきたい。P22 シェアモビリティ等については、公共交通なども含まれている認識で良いか。また、蒲原には漆器工芸品に関連する蒲原古代塗があり、この内容についても記載してほしい。

P17 商業について記載されている章について、「新たな動きがある」とされているが、現状として商店や飲食店は減っている傾向にある。出店した事業者の継続率が低いというのが現状・課題となっており、トライアルパークに出店した事業者の継続率等についてのデータがあれば良いと考える。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

トライアルパークの暫定利用を通して、場所を整備すれば利用者が訪れるというわけではなく、何か目的地化に寄与するコンテンツが必要であるという整理が1点目。また、オープンスペースやBBQ場・ゆったりと過ごせるスペースが近隣に無いことから、こういったニーズがあることが2点目。道路利用者の視点では、トライアルパークの隣接地を暫定駐車場として利用したところ、駐車場利用者が確認され、道路休憩機能としてのニーズも確認された。

利用者層・利用者数や継続率については、新たな商業施設や宿泊施設が出来た年から3年間で3万5千人の利用者が確認されている。事業者の継続率についてのデータは持ち合わせていない。シェアモビリティについては、公共交通に限らず、今後導入機能を検討していく必要があると認識している。

(大澤委員)

P22 地域課題として人口について「居場所づくりを推進」とあるが、現在の道の駅整備予定地はアクセス性に課題があり、どのように「居場所」と「アクセス性の課題」を解消して結び付けていくのかについて今後検討を進めてほしい。

(池谷委員)

P4「整理された」と記載しているが、トライアルパーク蒲原の成果について、道の駅の必要機能をどう整理したのか、もう少し厚みをもたせるべきと考える。

(服部委員)

トライアルパークを整備するに至った経緯についても掲載してはどうか。また、居場所づくりについても、老若男女なのか、または特定の利用者（子供の居場所づくり等）なのか、どの利用者層を想定しているのか。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

地域課題の解決を目的としており、特定の利用者の想定はしていない。この考え方については今後、整理していく。

(内海委員長)

トライアルパーク蒲原の位置づけについて、委員から意見があったように記載をお願いする。

(4) 議事(2) 道の駅整備コンセプト及び整備方針について(事務局(鏡味主査))

(筒井委員)

様々な道の駅を訪れた際に、物販施設で取扱っている商品がどの施設でも一様に同様の内容だと感じてしまうことがある。キラーコンテンツである海産物等を活用した物品販売などが出来れば望ましいと感じており、うまく差別化できればと考えている。

(山内副委員長)

道の駅の管理運営を専門として行っている事業者もあり、道の駅の管理運営に関するノウハウは十分だが、地域性をどのように反映していくのかについて留意する必要がある。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

今後、管理運営事業者の公募を行うにあたり、地域との連携等について公募要件として明記する等の工夫が必要だと認識している。

(辻本委員)

近隣に由比漁港があるが、漁港との連携は何か想定しているのか。

桜エビで有名な由比漁港が近隣にあるが、港とは違う業態・品揃えをすることで、今まで集客できていなかった主婦層、若者層を集客可能とすることもできるのでは。蒲原の事業者の中には、地域新聞の発行や空き家の活用などで、蒲原地域全体を盛り上げているが、やはり地域振興の核となる商業施設がないように思う。さらに5km圏には、立地条件がよく知名度も高い富士川楽座があるため、競合しないような差別化を図れば地域振興機能の中核となる商業施設繁盛店も実現すると思う。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

本検討委員会に先立ち、由比港漁業協同組合にヒアリングを行った。その中で道の駅と漁港の相乗効果についての意見もあり、実現に向けて工夫が必要であることから、今後検討を進めていく予定である。

(山内副委員長)

道の駅整備イメージをみるとトライアルパークと地域振興施設が完全に分離しているように見えてしまう。また、現在のトライアルパークはサイクル拠点としての機能も持ち合わせている。トライアルパーク蒲原と道の駅を一体の地域振興施設として捉えるのであれば、機能の中に更衣室等のサイクル関連の要素も入れたほうが良いと考える。また、道路情報の発信と、地域観光情報の発信が分けて記載されているが、5市2町のゲートウェイとして相応しい情報発信機能のあり方（例えば、近隣道の駅の情報など）についても一文加えてはどうか。またゲートウェイとして「蒲原地域」「静岡市」「静岡市外」という建付けとなっているが、もう少し広い視点で「由比・蒲原」「静岡市内」「富士市等隣接市町」のような記載としてはどうか。

(事務局（岩瀬課長補佐）)

トライアルパークの位置づけ（ナショナルサイクルルート上のサイクル拠点）について記載していく。施設の規模等については基本計画の中で具体化を図ることとする。また、管理運営については、トライアルパーク蒲原も含んだ形で募集を行う予定である。

(伊賀委員)

整備・管理運営手法については、まだ決定ではないという認識で良いか。また、道の駅そのものの整備手法（一体型・単独型）についてはどうか。

(事務局 (岩瀬課長補佐))

整備手法 (一体型・単独型) については、基本計画で決定していく。また、管理運営手法については一般的に想定される手法として整理を行った結果であり、現時点で特定の管理運営手法に決定しているわけではない。

(青木委員)

道の駅整備予定地に近接する、県の埋蔵文化財センターとの連携は想定されているのか。

(事務局 (岩瀬課長補佐))

道の駅が開業した際を想定して、埋蔵文化センターとの連携の在り方についてこれまで打合せを行っているが、具体的に検討を進めている状況では至っていない。

(内海委員長)

施設整備のキャッチコピーについては引き続き検討を行うこととし、何かアイデア等あれば事務局に報告する。

(5) 閉会